

魚のえさに見えるかな

「フライ」作りに挑戦

フライフィッシング(毛ばり釣り)で使うフライ(疑似餌)作りの体験教室が21日、桐生市立川内公民館で開かれ、親子連れなど約30人が水生生物に似せたフライ作りに挑戦した。

漁業が担う環境保全など多様な役割を知ってもらう、水産庁の「水産多面的機能発揮対策支援事業」の一環で、市民団体・渡良瀬川水系

魚ふれあい振興会(会長＝中島淳志・両毛漁業協同組合長)が昨年に続いて開いた教室。

参加者はまず、同公民館そばの山田川で、魚のえさになるカゲロウやトビゲラなどの幼虫を観察。元県水産試験場長の信澤邦宏さん(67)に、生き物の種類でその川の水質が判定できることを教わった。

フライ作りでは、鳥



水生昆虫に似せたフライ作りに挑戦する参加者(川内公民館で)

の羽根や動物の毛などの素材を釣り針に巻く

精密な作業を通じ、「魚の目から見た世界」に想像を膨らませた。桐

生西小4年の高峯大悟

君は「最初は難しかったけど、先生に分かりやすく教えてもらい、楽しく作れた」と二つのフライを仕上げた。3月8日には実際に釣りをする初心者向けのフライフィッシング教室を開く。問い合わせは同振興会(両毛漁協内、電32・1459)へ。